



文化部の逆襲!?

顎顔面放射線学分野 林 孝 文

新潟大学には多数の全学サークルがありますが、歯学部にも独自のクラブ活動があります。歯科に限らず医療活動というものは、人と人との繋がりが仕事を呼びこんでくる職業でもありますので、人脈形成を含めた社会的な活動展開の基盤として、教員としては積極的に参加することを勧めています。

クラブ活動は運動系（運動部）と文化系（文化部）に大別されますが、歯学部の運動部には、スキー部、バレーボール部、卓球部、弓道部、バドミントン部、剣道部、ゴルフ部、硬式テニス部、軟式野球部、バスケットボール部、ラグビー部、サッカー部、水泳部、柔道部があり、文化部には、軽音楽部、茶道部、パソコン部があります。運動部には夏季と冬季に全国的に行われている全日本歯科学学生総合体育大会（「歯学体」あるいは「オールデンタル」・「デンタル」と呼ばれています）があり、ここへの出場、優勝をひとつの目標として日々の活動を行っています。運動部はこのように活動内容が明快なために華々しく表舞台に立ちやすいのに対し、文化部は「何をやっているのかわかりづらい」イメージがあり、陰が薄い印象があるかもしれません。特に歯学部では、クラブの数から見ても圧倒的に運動系優位です。しかし、文化部の活動は実際にはその範囲も広く多様であり、たいへん活発に行なわれているのです。

私は現在、軽音楽部、茶道部、パソコン部と、文化部すべての顧問を担当しています。大学在学中は、現在活動はしていませんが、歯学部の写真部に所属していたことがあります。全学サークルでアニメーション作成に参加していた時期もあり、さまざまな映像表現を試みていましたが、今となってはそのときの思いが現在の仕事の原動力に繋がっているようにも思います。文化系クラブ活動への思い入れは人一倍あると自負しています。

最近では文化系クラブ活動も幅が広がり、全国のさまざまな大学でも参加者が増えつつあるとされています。現代において、世界が日本に期待するもののひとつに、日本独自の美意識に裏打ちされた文化があるといわれています。胸を張って、自分たちの活動を世界に発信するのも、楽しいとは思いませんか。このたび、私は歯学部ニュースの構成を見直し、学生たちの生き生きとした活動を積極的にお伝えする紙面を増やしていきたいと考えていますが、その第一弾として、マイナーな印象をもたれがちな文化系クラブ活動にスポットを当て、「文化部の逆襲!？」とちょっと過激な題をつけて、その具体的な活動内容を、軽音楽部と茶道部の代表者から紹介してもらおうと思います。ぜひお読みいただき、文化部の活動にも興味を持っていただけたら幸甚です。



軽音楽部 (LIARS)って どんなイメージ？

歯学科4年生 小林 太一

軽音楽部というとどんなイメージをお持ちでしょうか？「ギターとか楽器の経験がないと駄目？」「ベースって何？」「ドラムって初心者には難しい？」などといった、ちょっと参加しづらい、もしくは楽器は難しいといったようなイメージを持っている方も少なくはないと思います。しかし、実際の軽音楽部はそのような難しいものではありません。むしろ初心者から始めても平気な部活です。皆さんがもしそのようなイメージをお持ちでしたら、それを少し変えさせていただくために、軽音楽部を少し紹介してみようと思います。

現在、軽音楽部は部員16人で活動しています。主な活動はバンド単位での練習、そしてライブになります。バンドでの練習場所は歯学部の講堂をお借りしています。週何回という決まりは特になく、各バンド予定をあわせて自由に行っています。アンプやスピーカー、ドラムといった器材は軽音楽部で持っているため、部員は自分の楽器を持ってきてだけです。初心者の方はここで先輩や同学年の同じ楽器が弾ける人に教えてもらいます。講堂が使えないときには近くの楽器店のスタジオを使用します。楽器や楽譜などの購入など、いろいろお世話になる楽器店です。

バンドで演奏する曲はさまざまです。特定のアーティストのコピーをやるバンドもあれば、メンバーがやりたい曲を選んでいろいろな曲を演奏するバンドなど多種多様です。過去にはオリジナルを作ったバンドもあります。1人ひとつのバンド、といったような制約はなく、何個も掛け持ちしている人もいます。いずれにせよ好きな曲をバンドのメンバーと練習している時間は何物にも代えられない楽しい時間です。

また月に1回ミーティングを開き、ライブの日

程など決めていきます。ミーティング終了後は部員で飲みに行くなど、先輩後輩関係なく交流しています。

さて、軽音といえばライブイベントです。今までの練習の成果を発揮する、楽しみでもあり、少し緊張する場でもあります。軽音楽部では新歓と歯学祭、ライブハウスで行う定コン(定期コンサート)、そして追いコンが1年で行うライブになります。特に大きなイベントとなるのが10月の歯学祭とそこからほぼ間をおかずに続く、11月の定コンです。歯学祭では講堂を使用してもらい、歯学祭の一環として歯学祭を盛り上げます。多くの方は生のバンドの演奏というものを聞いたことはないと思いますが、歯学祭では気軽に生のバンドの演奏を聞くことができます。その迫力、音の力に圧倒される方も少なくないはずで、歯学祭へお越しの際はぜひ講堂へ足を運んでみてください。初心者として入った新入生もこのころになると先輩たちと遜色ない演奏を披露してくれます。

ライブハウスを1日借り切って行う定コンは医学部の軽音楽部にも参加してもらい、学部の枠を超えてのライブとなります。歯学祭とはまた違う、ライブハウスという普段なかなか訪れることのない



2008.10.25 歯学祭ライブのあとで

い場所でのライブとなるので、観客の方にも日常とは切り離された特別な雰囲気、盛り上がりを味わっていただけるかと思います。

このように活動している軽音学部ですが、運動部と違いデントルのような大会がありません。このデメリットは他の学部、大学との交流が運動部より狭くなってしまふことになります。あまり歯学部だけの軽音楽部とならないように現在では医学部の軽音楽部と協力し、学部を超えてライブに参加してもらったりしています。かつては今まで以上に医学部との交流は多かったそうなので、よ

り多くの交流を図りたいと思います。また、今後は歯学部・医学部といった旭町キャンパスの枠を離れ、五十嵐の全学サークルと共同でライブを開いたりできれば、と思っています。

軽音楽部という部活のイメージは変わったでしょうか。決して敷居の高い部活でもなければ、「楽器なんかまったくやったことがない」という人でもまったく問題ありません。軽音楽部の当面の目標は、部員数の増加です。音楽が好きな気持ちがあれば大丈夫です。新入部員はいつでも大歓迎です。お待ちしております。





2009.3.14 卒業ライブの風景



茶道部って楽しいの？

歯学科4年生 上村 藍太郎

私が茶道部に入ったのは、一年生の冬でした。茶道部に入ってからよく訊かれることがあります。ひとつは、「茶道部って何をやっているの?」ということ。もうひとつは、「茶道部って大会があるの?」ということ。これに対する私の答えは決まっています。最初の質問には、「お茶をたてて、お茶を飲んで、お菓子を食べて…」。

次の質問には、「茶道部に大会はないよ」。こう答えると、決まって次の質問が返ってきます。「で、茶道って楽しいの?」。

みなさんは、茶道に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか。時代劇では、必ずといってよいほど、茶道の場面が見られます。きれいな着物を身にまとったやんごとなき人がお茶を振舞っていたり、あるいは、お茶を飲みながら渋い顔をした武士が何やら物騒な話をしていたり。なんとなく敷居が高い*と思われるかもしれません。しかし、茶道は決してそのようなものではありません。日常の連続です。時代劇で見るとは、少なくとも私たち茶道部員にとっては、遠い遠い世界です。日常の連続でありながら、お茶室という非日常の空間で茶道を楽しむ。これが私たち茶道部の活動です。

茶道部は部員8名で活動しています。流派は江戸千家です。活動は週1回、澁谷后雪先生のご指導のもと、池原会館（医歯学図書館隣）の和室で行っています。決して立派な部屋ではありませんが、床の間も炉もあります。お茶室としてはこれで十分です。静かなお茶室で過ごす一時は、忙しい日常から解放され、ひと息つくことのできる貴重な時間です。

茶道の所作を練習することはもちろんですが、お稽古を通して先生から多くのことを教えていた

だきます。お道具のことや、季節の花などについてです。きれいな歩き方や社会人に求められるマナー、おもてなしの心について教えていただくこともあります。どれもこれから大切にしていきたいことばかりです。お稽古では各人が真剣に取り組みますが、部活が終わった後に部員同士で飲みに行くこともあります。茶道部は、先輩・後輩が気兼ねなく交流する楽しい部活です。

さきほど茶道部に大会はないといいましたが、その代わりといえるものとしてお茶会があります。1年生、2年生の頃のお茶会は、緊張の連続でした。お点前のときだけではなく、客としてお茶席に入るときにも緊張したことを覚えています。茶道を始めてすぐの頃は、お茶会でお茶をいただくのも一苦労です。回を重ねてお茶を楽しくいただけるようになると、次の楽しみは、床の間の掛け軸や、お茶碗などのお道具を拝見することです。掛け軸にかかっていることや、お茶碗の釉薬の流れ具合、茶器の絵柄などを楽しめます。興味があれば、お点前が終わったあとにじっくりと拝見することもできます。これらを拝見し、日常生活から遠くなってしまった“日本文化”に触れることは、茶道部で活動する楽しみのひとつです。

私たちが参加しているお茶会は、5月の開学記念茶会、10月の歯学祭、そして11月の学生茶会です。開学記念茶会は、白山公園の燕喜館で行われます。このお茶会には、私たちのほかに、五十嵐キャンパスで活動している茶道部も参加します。学生茶会ではさらに、他大学の茶道部も参加し、白山公園の燕喜館と北方文化博物館新潟分館の両方で行われます。歯学祭では、歯学部の病院大会議室で行っています。みなさんが気軽に足を運んでいただけるお茶会は、歯学祭のお茶席ではない

でしょうか。ここでは、気軽にお茶を楽しんでいただけるように、立礼^{りゅうれい}で盆略点前^{のどて}を行っています。立礼では、お茶をたてる人もお茶をいただく人も椅子に腰掛けます。正座をして足がしびれる、ということはありません。歯学祭のお茶席は野点^{のどて}をイメージしており、赤い大きな傘の下でお茶をたてます。傘をたて、香を焚いて行うお茶席の雰囲気は、普段の会議室からは想像できないものです。歯学祭に足を運んでいただいた折には、ぜひ、一服のお茶を楽しんでください。

2年前、茶道部は創部40年を迎えました。この節目の年に、江戸千家茶道部創部40周年記念茶会を白山公園の燕喜館にて催しました。お茶会には、茶道部員のほかに、30名余りもの茶道部OB・OGの先生方にもご参加いただきました。お茶会

では、参加された先生方から思い出をいろいろとお聞きすることができました。みんなで飲みに行ったことや、緊張して初めてのお茶会に臨んだこと。どれも今の自分たちと変わらないものでした。茶道部OB・OGの先生方が学生時代を振り返ったとき、楽しかった茶道部での活動が思い出されるようです。

茶道部の楽しさがお分かりいただけでしょうか。茶道部の当面の目標は、部員を増やすことです。現在、茶道部員は歯学部生のみですが、数年前までは医学部生も所属していました。今後は、医学部生にも声をかけ、昔のような大所帯の部活にしたいと考えています。新入部員は随時募集しています。お待ちしております。



一昨年度の創部40周年記念茶会の際の写真



* 編者注：[敷居が高い]の本来の意味（相手に不義理などがありその人の家に行きにくい）とは異なる用法ですが、ここでは「高級すぎたりして入りにくい」の意味で使っています。